

# 生計戦略としての開発援助プロジェクト —人びとの主体的な資源獲得活動に注目して—

平成 21 年入学

参加したフィールドスクール：カメルーン・フィールドスクール

調査国：ガーナ共和国

牛久 晴香

キーワード：北部ガーナ、住民組織、主体性、生計、開発援助

## 自分の研究テーマについて

ガーナは構造調整期の「IMF の優等生」と呼ばれ、これまで数多くの援助機関がその時代最新の援助プロジェクトを実施してきた。現在援助機関が集中しているのはノーザン州、アッパーイースト州、アッパーウエスト州を含むガーナ北部である。ガーナ北部は歴史的に開発の遅れた地域であったが、南部の経済発展に伴い今まで南部で活動してきた援助機関が北部へと進出し始めたこと、2008 年から「北部開発イニシアティブ」が立ち上げられたことなどが影響し、多くの生計向上プロジェクトが実施されている。

報告者の調査地であるアッパーイースト州 N 村においても、近年さまざまなプロジェクトが実施されている。N 村の農民組織の一つ「T」は、これまで一際多くの援助機関からの支援を獲得してきた。T では、メンバーが「ドナー」からの指示に忠実に従うため、更なる支援が行われるという循環が生まれている。開発学では、「受益者」の生活は改善されるべき対象であることが前提とされ、近年「住民参加」が標榜されているとはいえ、現実には彼らは「影響を受ける人びと」の地位にとどまっている。しかし、本研究は援助という場における「受益者」の主体的かつ選択的な資源（モノ、技術、金、人脈等）獲得活動に注目することにより、個々人が開発援助という圧倒的に大きな力をいかに利用し、生活を変化させようとしているのかを明らかにすることを目的とする。

## フィールドスクールから得られた知見について

カメルーン・フィールドスクールでは自然環境や、政治的、経済的、社会的背景の異なる複数の地域を訪れることができた。演習の一環で訪れたアンドン村は、一村内に森林地帯とサバンナ地帯を含んでおり、そこに暮らす人びとの民族、生業、生活様式は全く異なっていた。カメルーンの人びとの生活様式の多様さに驚くと同時に、一事例から全体を推測することの難しさを感じた。しかし、地域研究の強みはなにより一つの地域を包括的に理解することにある。腰を据えて一つの地域を観察することにより、物事の複雑さや真の問題点を明らかにすることができる。開発援助は人びとの生活を大きく変化させてしまう可能性を十分に持つ。開発援助に今求められているのは、効率や効果よりも人びとと深く関わり合い、人びとが望む未来の姿を共有し、共に少しずつ前進していくことではないだろうか。

今後のフィールドスクールに期待することとしては、実務家との討議の場をより多く設けることが挙げられる。今回のフィールドスクールでは研究者や地域の権力者との交流が多かったように思われる。実務家マインドを持った研究者および研究者マインドを持った実務家を育成するという目的を鑑みれば、実務家がどのような意思・目的のもとそれぞれの活動を行っているのかを知る機会を増やすことで、

より有意義な意見交換が可能となると考えられる。

### フィールドスクールで学んだことがどのように研究テーマにいかせるか？

カメルーン・フィールドスクールを通じ、自然環境が外からの資源獲得に大きな影響を与えることを改めて感じた。演習初日に訪れたジャー森林保護区付近の村と比べ、先の例に出したアンドン村は地方都市からのアクセスも比較的よく、多くの住民組織が存在し、実際に援助機関も多く入っているとの印象を受けた。報告者の調査地は農村であるが、巨大なダムからの水があるため、一年中農業を行えるガーナ北部でも恵まれた農村である。実際に現在技術支援を行っているボランティアの話によれば、N村を選定した一つの理由として、水が近くにあり、成果が見やすいことを挙げた。博士予備論文では人びとを取り巻く環境が彼らの生計戦略及び資源獲得にどのような影響を与えているのか、またその環境条件がニャリガ村の人びとの生活と近隣他村の人びとのそれとを如何に異ならしめているのかも考慮したい。

### 参考 URL

Kassim, Abdallah. 2008 (Oct. 24). Northern Development Fund: Mirage or Reality, AllAfrica.com  
<http://allafrica.com/stories/200810240816.html>

### 写真



写真1 【ガーナ】：  
トパの Organizing Secretary。  
手に持っているのは農業省（MOFA）  
指導の下作られた肥料。



写真2 【ガーナ】：ニャリガ村で主に女性が  
編むバスケット。



写真3 【カメルーン】：ジャー川。



写真4 【カメルーン】：アンドン村の住民組織の方々による熱烈な歓迎。